



# Thalidomide Symposium

# サリドマイドシンポジウム2025

サリドマイド薬害をあなたは知っていますか？

# 本日のプログラム

- 開会のご挨拶
- 薬害サリドマイド事件について学ぼう
- 証言者の声を聴く

「なんのために生まれ、  
なんのために生きるのか」

- パネルディスカッション  
「薬害が日本社会のありようを問う」

# シンポジウム開催の目的

市民・医療関係者・学生等、同じ時代を生きるすべての人々に、サリドマイドについて今一度、社会全体で向き合って、今後被害者たちの不安を少しでも解消するために「何が出来るか？」ということと一緒に考えてもらうための機会としてのシンポジウムを、開催したいと思います。

# One teamの立ち上げについて

サリドマイドシンポジウムは、私とOne teamと共催になっています。昨年、ドイツのサリドマイドに会い、2000年以降にヨーロッパで多くの人たちが、サリドマイドを救おうと動いてきたことを知りました。彼らは自ら立ち上がり、長い沈黙を破り「自分たちに命の危機がきている」と訴えました。2024年10月14日、私はFacebookでサリドマイドのサポーターになって欲しいと呼びかけ「One team」ができました。

**以下は、そのときの呼びかけ文の抜粋です。**

サリドマイダーが自分の命の尊さを大切にできるように、「生きる権利」を獲得できるように活動します。具体的には、尊厳のある人生を送れるよう、以下の権利を行使するために活動します。

- 安心して治療が受けられる環境を作る。
- 体を酷使しないで暮らせる生活環境を確保する。
- サリドマイダーの交流を図る。
- 和解時にわからなかった障害/病気に対する補償の獲得。

ざっくりな表現ですが、みんなに生きてよかったと思えるような人生であって欲しいので、力を尽くしていきたいです。

## ■ 生きる権利とは何か？

「生きる権利」とは、日本国憲法第25条で「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と定められています。また、子どもの権利条約では、子どもが健やかに成長するために必要な、生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利の4つの権利が定められています。

生存権、医療を受けられる権利、安全な環境で暮らす権利、教育を受ける権利を指します。

# 薬害サリドマイド事件とは何か？

1957年、西ドイツでサリドマイドが開発され、1958年、日本でもサリドマイド成分を使った睡眠薬（イソミン）胃腸薬（プロバンM）が発売されました。副作用がない夢の薬といわれたサリドマイドは、神経性胃炎に効くとして発売されていた胃腸薬を、悪阻を抑える薬として使うようになりました。副作用で1,000人～1,300人が亡くなったと言われています。

## どんな副作用だったのか？

サリドマイドの入った睡眠薬や胃腸薬を服用した妊婦さんから、次々と先天異常の赤ちゃんが産まれました。薬の副作用で血管新生が阻害され、身体、内臓、血管などあらゆるところに奇形や欠損が起こりました。

薬の副作用と認めない国や製薬会社に対し、  
親たちは損害賠償を求め裁判を起こしました。  
裁判で薬事行政の不備や製薬会社の不実でか  
つ不十分な対応が、被害を深刻にさせたと指  
摘し、1974年に和解が成立しました。

# 実際のイソミンの写真



グルタミン酸を原料とした

# 催眠剤

イソミンはグルタミン酸を原料としてつくつた、まったく新しい型の催眠剤です。

ねつきが早く

ねむりが深く

めざめ爽やか…なのが特長です  
イソミンをおのみになれば深く  
やわらかい自然の眠りに誘われ  
明日への活動力がたくわえられます。

麻酔性なく、常用してもクセにならず安心して服用できます。

一二錠 一五〇円・三〇錠 三〇〇円

(他に未あり)

クセにならない

# イソミン

●イソミンの薬贈呈(新聞名を記入ください)  
大塚市東区通新町 大日本製薬株式会社

★健保適用



当時の新聞に掲載された広告：国会図書館より

# 神経生活者の胃の薬



アメリカの統計によると、病院へ来る胃病患者の約75%が<心因性>即ち、神経的な因子をおびた胃病だと言う……

日本はまだアメリカ程でなくとも、騒音、イライラ、交通雑物値の値上りなど、神経や感情のすりへることが日々によく<心因性の胃病>も刻々と増加しつつあります。

プロバン錠は、胃を支配している自律神経の乱れを整え、過剰の胃酸を抑えるなど、特に神経生活者の胃病を目標につくられた<新しい考え方の>新しい胃の薬です。

★天竺の楽道家やお子様(試験期の学生さんは別です)には一寸もつたいない胃の薬です。

## 神経生活者とは?

例えばマネージャー、経営者、マスコミ関係者、文筆家、科学者、学校の先生、役員関係者、政治家関係者、サービス業従事者など

## こんな方に

- ・抑りにくい胃酸・胃痛・胃痛過多でお悩みの方
- ・胃潰瘍・十二指腸潰瘍の方
- ・またその恐れのある方

10錠 200円・30錠 550円・100錠 1,430円/ ●検保服用

神経を使う人の胃病に

# プロバン錠



大日本製薬株式会社  
大阪市東区道徳町(プロバン)係

●試供薬・説明書送呈  
(新聞名をご記入下さい)

保安官 ワイアット・アープ



日本テレビ系(金)9時15分

Ⓟ

喘息の発作

早く  
とめる



当時の新聞に掲載された広告：国会図書館より





# 「この薬害を告発する」

## サリドマイド裁判勝利へ行脚



大日本製薬の責任を追及しよう(阪大前)で集会をひらいた被害者支援のひと

「妊婦や老人に安全というキャッチフレーズで、大々的に売り出されたサリドマイド系新睡眠薬、胃腸薬を服用した母親から奇形児が生まれた——サリドマイド裁判を支援する市民の会(平沢正夫代表)は、こう訴えながら、九月十九日から五日間、東京、関西までのキャラバンをつづけ、四日、全部の日程を終わった。キャラバンの終点、大阪府では、薬の製造、販売元である大日本製薬の責任を追及しよう(阪大前)で集会をひらき、御堂筋一同社本社まで静かなデモをくり広げた。裁判闘争を支援する全国行脚は、これまでも革新勢力の間でくり返されてきたが、薬害を正面から告発したケースは、これ迄はじめてであり、これからの薬害闘争に大きな影響を与えることが考えられる。

市民の会は十九日午後、業務執行の担当官庁である厚生省に抗議文を渡したあと、マクドバス一台で東京を出発。三十日朝、静岡県富士で「サリドマイド禍のいっさいの責任は、国のスパンを薬害行政と、製薬会社人間を無視した利権第一主義、さらにこれに加担した行商にある」と盛り込んだビラ約三千枚を通勤者や学生たち配った。また、社会党富士総支部の荻井支部長も街頭に立ち、サリドマイド問題を訴えた。

日比川周辺で街頭署名とパン活動。愛知県内に住む被害者の父親やお母さん、水俣病を告発する会の会員、十四、五人もれに合流し、薬害問題やサリドマイド事件の背景を道行く人たちに説明、裁判闘争への支援を呼びかけた。キャラバン隊は翌朝、愛知県庁をおとすれ、児童福祉課の夏目課長と会い「県内に居住する被害児の実態調査をせよ」と四項目の要望書を提出。席上、夏目課長は「被害児の救済対策は福祉、教育、民生など幅広い範囲にわたるので、関係各課に要望の内容を伝えて遊処したい」と約束した。

このあと、大日本製薬名古屋営業所、キャラバン隊といっしょに同営業所に向いた被害者家族たちは所長へ「いわくしたが初めにあな方の会社に押しつけたのは、もう十年前の話、それから一片の誠意もみせてくれない」と

## 国と製薬企業へ 怒りぶつつける

## 関西でも支援組織を結成

【京都】「サリドマイド裁判を支援するための連絡会議」の結成集会が、一日午後一時から、京都市京都教育センターでひらかれ、関西地方でも本格的な支援闘争が展開されることになった。集会には被害者の家族をはじめ、若い主婦、学生、医師、公務員、会員弁護士、薬剤師ら約百五十人が集まり、これからの支援運動について話合った。

「サリドマイド裁判を支援する市民の会」がのほろほろ生じながら、同連絡会議の結成は、これまで孤立してきたサリドマイド裁判が、ようやく市民運動として広がりをみせはじめたことを物語るもの

を、裁判支援行動のなかで、地方自治体、製薬会社にはたらかさける(る)ことと薬禍の被害者を出さないう、医療行政の根本的改革を関係各局に要求する——などとなる。

## 子供の手にぎりしめ 『約束きつと守ります』



「申し訳ありません」と被害児たちの手をにぎり謝る 宮武大日本製薬社長(東京・平河町の都道府県会館で)

### サリドマイド 訴訟和解調印

【大阪】「約束きつと守ります」という約束を、約十年間、苦闘を続けてきた「約束きつと守ります」のメンバーが、この約束を、きつと守ることを誓った。この約束は、被害者支援のひと、十名を代表して、大日本製薬社長に提出された。約束は、被害者支援のひと、十名を代表して、大日本製薬社長に提出された。約束は、被害者支援のひと、十名を代表して、大日本製薬社長に提出された。

# 「ごめんね、涙で謝罪」 大日本製薬 宮武社長

さめた目で見つめる被害児 過去忘れ立派な大人に...

「申し訳ありません」と被害児たちの手をにぎり謝る 宮武大日本製薬社長(東京・平河町の都道府県会館で)



サリドマイド被害児の写真



## ■薬害被害とはなにか？

人が起こす人災だと言われています。承認時の動物実験などで、すべての問題が把握できるわけではなく、市場に出てから医薬品は真の評価を受けます。

製薬会社にとって副作用を認めることは利益を損ねることであり、回収などに応じたくないという状況にあります。科学的な根拠がないといい、積極的な対策が取られてきませんでした。しかし、未知の副作用被害を証明できるのは、**副作用被害の蓄積**のみです。根拠がなければ対応しないとなれば、被害の深刻化を待つのみになります。

ヨーロッパで回収が始まって、日本では副作用被害は確認できないと、安心して服用くださいと言いつつ、すぐに回収がされることはありませんでした。悪阻どめに使われていたことも、被害を大きくしました。40カ国以上で発売された薬ですが、日本の被害者数は3番目に多いという惨事になりました。

1960年代の日本では、先天異常の赤ちゃんが生まれるということは、「先祖に悪い事をした人がいる」あるいは「遺伝からきている」といわれ、その家族にはいずれ同じような子が生まれるといわれ、離婚や家族の離散を招きました。当事者だけで背負うには、あまりにも重い十字架だと思います。

# ■ 被害者たちは、被害から60年も経った今になって沈黙を破るのか？

サリドマイドは、胎児が成長過程で副作用の影響を受けるために、これまで人類が経験したことのない、特異な身体で生まれます。

サリドマイドを知る人も減り、未知の体では**治療を断られてしまう**ことも少なくありません。

309名の被害者たちが、250人を切る勢いで亡くなっています。

身体の奇形/欠損、血管の奇形/欠損、胆嚢や内臓の奇形/欠損、糖尿病が多い、塊椎（椎骨が分離せず癒合している状態）、骨密度が低い、顎や歯の奇形/欠損、軟骨などの異常、ヘルニアなど問題があり、不調があっても原因が特定できないのです。

## ■証言者の声を聴く

なんのために生まれ、なんのために生きるのか

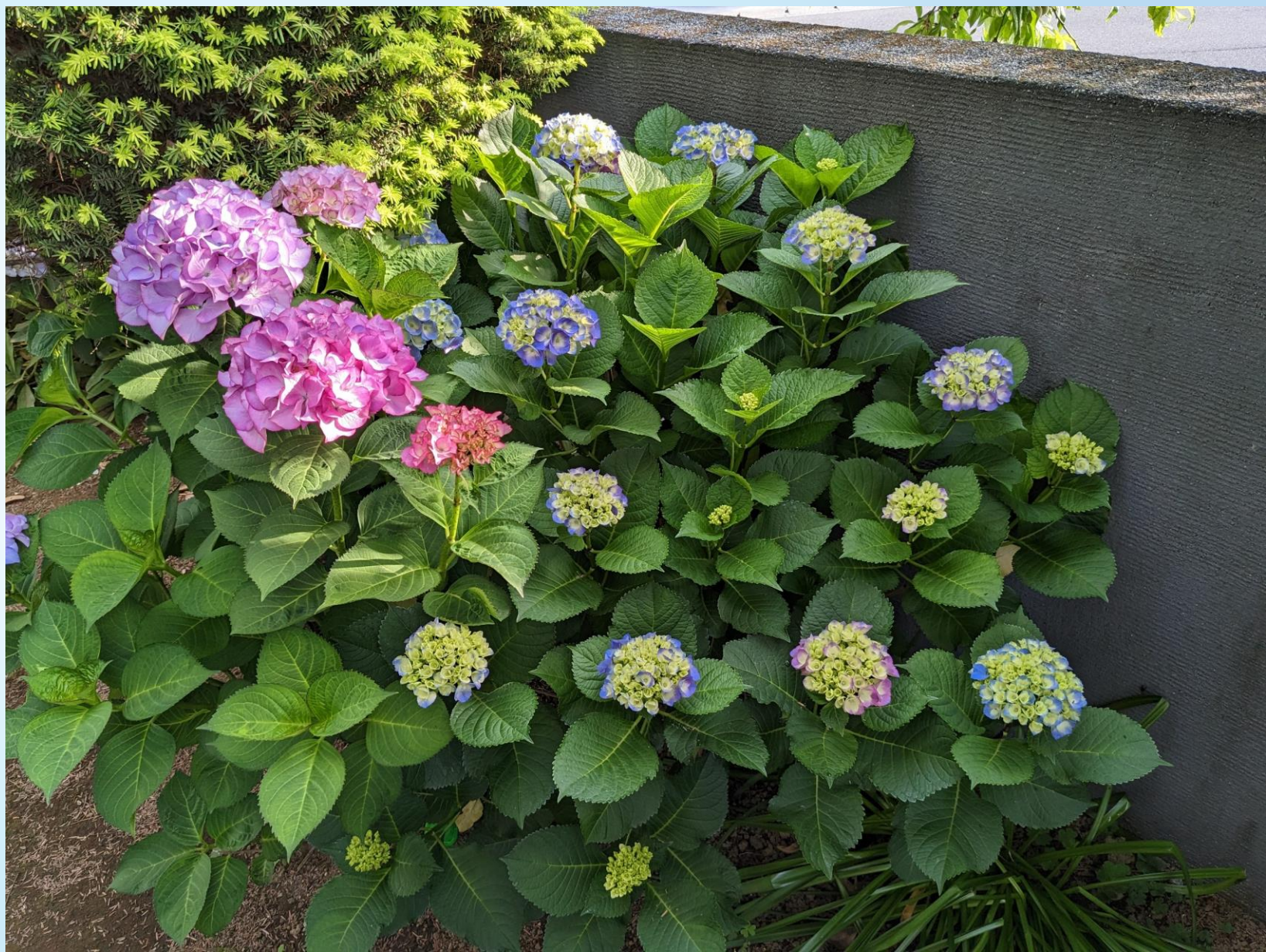
河口 智彦さん (愛知県)

中野 寿子さん (山口県)

佐藤 順子さん (北海道)

市川 昌也さん (北海道)

休憩



## ■ パネルディスカッション

「薬害が日本社会のありようを問う」

飯田 和樹さん (ジャーナリスト)

高町 晃司さん (薬害スモン被害者)

島田 光明さん (薬剤師)

増山 ゆかりさん (薬害サリドマイド被害者)